

平成27年度第2回横浜市子ども・子育て会議 会議録	
日 時	平成27年10月30日（金）午後3時00分から午後4時30分まで
開催場所	ワークピア横浜「くじゃく」
出席者	相原和行委員、大野功委員、大日向雅美委員、木元茂委員、後藤美砂子委員、土山由己委員、橋本ミチ子委員、蓑田雅委員、村田由夫委員、森祐美子委員、柳井健一委員、梁田理恵子委員、山田美智子委員、吉田眞理委員、渡辺克美委員
欠席者	明石要一委員、太田恵蔵委員、住田昌治委員、高田治委員、増田まゆみ委員
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	<p><議題></p> <p>1 部会の開催状況報告</p> <p>(1) 子育て部会</p> <p>(2) 保育・教育部会</p> <p>(3) 放課後部会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 次世代育成支援行動計画（後期計画）の総括について</p> <p>(2) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>(3) 地域限定保育士の創設に係る条例改正について</p> <p><報告事項></p> <p>1 子育て部会における所掌の追加について</p> <p>2 子どもの貧困対策に関する計画の検討状況について</p>
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成支援行動計画（後期計画）の総括について、事務局案を承認した。 ・横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について、事務局案を承認した。 ・地域限定保育士の創設に係る条例改正について、事務局案を承認した。
<p><議題></p> <p>1 部会の開催状況報告</p> <p>(1) 子育て部会</p> <p>（吉田委員）資料に基づき報告</p> <p>⇒質問・意見なし</p> <p>(2) 保育・教育部会</p> <p>（木元委員）資料に基づき報告</p> <p>⇒質問・意見なし</p> <p>(3) 放課後部会</p> <p>（橋本委員）資料に基づき報告</p> <p>⇒質問・意見なし</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 次世代育成支援行動計画（後期計画）の総括について</p> <p>（事務局）資料に基づき説明</p> <p>（大日向委員長）また、この件について山田委員から資料をご提出いただいておりますので、山田委員からご説明をお願いいたします。</p>	

(山田委員) 後期計画の振り返りということで、私が所属しております「よこはま一人子育てフォーラム」で振り返りを行いました。「よこはま一人子育てフォーラム」では、この後期計画を策定する際に、地域子育て支援拠点や親と子のつどいの広場の利用者、障害児の保護者の方などを含め552名にアンケートを取り、後期計画への提言書として提出しております。その提言書の中での一文が「協働の推進」なのですが、「よこはま一人子育てフォーラム」とこども青少年局との共催でフォーラムを実施するなど、この後期計画に市民としてどのように行動し、関わるべきかということ提言するだけでなく、行動を実践しようということやってまいりました。そして、提言を出したからにはきちんと振り返りましょうということで、自分たちなりに振り返り、資料に3つのお願いを書かせていただいております。

まず1つ目が『量の視点』から『質の視点』へです。数だけでは見えない質の部分をもどのように評価していくのか、そこの視点を大事にしてください。質を大事にするということは、行政と市民の協働を大事に行動していくということでもありますので、そこの視点をぜひ持ってくださいというお願いが1つ目です。

そして2つ目が、「新たな顕在化したニーズへの取組」を柔軟にお願いしたいということです。現在、「よこはま一人子育てフォーラム」では、産前・産後の支援、障害児への支援、貧困、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援を中心にチームで動いているのですが、複合的な課題を持つご家庭がかなり多くなっており、それらの支援が難しいということ現場でも実感しております。

そして3つ目は、「各事業におけるネットワークづくり」です。色々な事業が進み、多様な事業者が参入してくる中で、事業者間のネットワークをつくるに当たっての支援を行政にもお願いしたいと思っています。

なお、いつもお願いするばかりではなく、行動する市民、それから事業者としても私たちは振り返りの視点を持って、この資料を作成しました。複合的な課題に対応するためには素早い行動と柔軟な取組が必要になりますので、ぜひ新しい制度の中で一緒に協働で進められたらと思っています。

(大日向委員長) 貴重なご意見をありがとうございました。そのほか、他の委員の皆様からご質問等がありましたらお願いします。

(吉田委員) 送迎保育ステーションの整備なのですが、必要性がなくなって1か所での実施になったということでしょうか。この事業はとてよ手法ということで着目されたものが、どうしてまだ待機児童がいる中で1か所になったのか。そのあたりの分析を教えてください。

(事務局) 送迎保育ステーションですが、利用料が必要ということや、いくつもの保育所を回るということで、利用者のニーズをあまり吸収できなかったところがございます。ですので、現在は旭区の1か所のみでの実施ということになっております。今後は、駅の近くの保育所へのニーズが高くなっていることや、既存資源の活用を考えながら、検討を進めていきたいと考えております。

(事務局) また、1点補足させていただきますと、駅前に送迎保育ステーションをつくり、駅から遠い保育所に送迎することを目的に事業を実施してきたのですが、近年、駅前にかなりの数の保育所ができ、利用ニーズが少なくなってきたことが1つの原因と考えております。それからもう一点、本事業は3、4、5歳児を対象としているのですが、3、4、5歳児のニーズが比較的ひっばくしていないこともあり、その部分でのニーズが少なくなってきたことも原因だと考えております。

(吉田委員) そうしますと、0、1、2歳児だったらニーズがあるかもしれないということになりますか。

(事務局) 0、1、2歳児が駅前にできた保育所に吸収されたということと、なかなか0歳児を送迎するというのは難しいということもあり、本市では3、4、5歳児を送迎するという形にさせていただいたことから、その部分のニーズが合わなかったと考えております。

(吉田委員) 保育者を養成している立場から、送迎時に自分の子どもを昼間見てくれる保育者と言葉を交わしたり、子どもの様子を伝えたり伝えられたりというのがとても重要な場面になりますので、この事業が始まっ

た時に、保育者の中で危惧の声が大変にありました。もしかしたら保護者の方も同じような気持ちをお持ちになったのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

(事務局) 保育士から直接、話を聞くことを目的に、送迎先の保育所に行っていただくことを義務づけておりました。これは、保護者の方の負担にはなっていたとの声もございました。

(大日向委員長) ほかにいかがでしょうか。それでは、特段ご意見がないということで、本件はこの案をご承認いただいたということでもよろしいでしょうか。それでは本件につきまして、事務局でこの後の作業を進めていただきたいと思います。

⇒事務局案を承認

(2) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(事務局) 資料に基づき説明

(大日向委員長) 本件に対して委員の皆様からご質問・ご意見がありましたらお願いします。

(柳井委員) 今の段階では、この書式や評価の仕方については特段大きな意見はないのですが、推進の方策についていろいろなものが書かれていますが、推進することがよくなかったということも当然出てくるかと思えます。それは数値目標では分からない部分があるので、例えば、色々な人の意見を聞いた時に、推進の方向ではない意見もある中で、どのような議論をしたらよいのかということが加味できるような様式にしていきたいと思います。

(事務局) いただいたご意見について、十分に検討させていただいて反映させていきたいと思えます。

(森委員) 制度と制度の狭間で実際に感じている声をいかに多く拾っていきけるかということも大事だと思っています。そういった声を一つ一つ拾っていくということには、数に限界があるものの、とても大事だと思うので、私たちの活動の中でも引き続き行っていきたいと思っています。一方、大規模なアンケート調査については、行政の方で、どのぐらいのペースで、いつごろに実施しようと考えていらっしゃるのかということをお聞かせいただけますか。

(事務局) 現在は、平成25年度に実施したニーズ調査に準ずるような形での調査を、計画の中間年で実施するかどうかということについては未定です。今回の点検・評価の中で、利用者や事業者の皆様へアンケートを実施したり、直接ご意見を伺ったりということについては、各事業を実施する中で行っていきたいと考えています。

(山田委員) 「点検・評価の視点」の(2)「施策を推進していく過程の評価」については、本当に大事にしていきたいと思いますので、書いていただいてありがとうございます。それから(3)「利用者や実施事業者等からの意見の把握」については、事業者が当事者の声を代弁できる部分もたくさんあると思うので、ぜひ事業者の声も大事にしていきたいと思います。それから、事業者同士のネットワークもそこで大事になってくると思っていますので、ぜひいろいろな声を吸い上げられるような工夫をしていただきたいと思います。

(大日向委員長) ほかにいかがでしょうか。それでは、特段ご意見がないということで、この案を基本的に承認させていただき、進捗に関しましては事務局と相談しながら進めるということでもよろしいでしょうか。それでは本件につきまして、事務局でこの後の作業を進めていただきたいと思います。

⇒事務局案を承認

(3) 地域限定保育士の創設に係る条例改正について

(事務局) 資料に基づき説明

(柳井委員) 横浜では地域限定保育士の試験は年に何回行われるのですか。

(事務局) 試験は、国で全国統一的に行うものが1回あり、地域限定保育士については、それにプラス1回ということで、神奈川県においては年2回の実施となります。

(大日向委員長) 委員の皆様からご質問などがありましたらお願いいたします。よろしいですか。それでは、特段ご意見がないということで、本件はこの案をご承認いただいたということでよろしいでしょうか。それでは本件につきまして、事務局でこの後の作業を進めていただきたいと思います。

⇒事務局案を承認

<報告事項>

1 子育て部会における所掌の追加について

(事務局) 資料に基づき説明

⇒質問なし

2 子どもの貧困対策に関する計画の検討状況について

(事務局) 資料に基づき説明

(柳井委員) 子どもの貧困という問題はこの会議の中でも話題になっていて、このことに取り組まれることは非常によいことだと思っています。子どもの貧困問題において、今とても大変な状況に陥っているのは大学生であります。今は、大学生の過半数が奨学金を得ながら大学に通っています。しかし、せっかく大学に行って一定程度の就職先があったにしても、最初から何百万円というローンを抱えながらの就職ということが大きな課題となっています。ぜひ大学生の奨学金という視点をこの計画の中に入れていただきたいと思います。

(大日向委員長) 私からも1つお尋ねしてよろしいでしょうか。このアンケート調査なのですが、対象者アンケートの対象である、いわゆる経済的支援制度等を使っていらっしゃる方々の回収率を見ますと10%台で、アンケートに答える余裕もないようなひっばくした暮らしをしておられるのかなと思いました。一方、市民アンケートは44.3%ですから、通常のこうした調査では比較的回収率がよい方だと思います。その上でお尋ねしたいのは、この市民アンケートと対象者アンケートをどのような対比のもとに使おうとされたのか、その設計の目的を伺いたいです。それから、柳井委員が言われたように大学生は潜在的に将来の貧困層になるかもしれない層でもあるかと思いますが、その大学生はこの市民アンケートの対象者に入るのでしょうか。

(事務局) まず、市民アンケートと対象者アンケートの設計の意図ですが、別添資料3の2ページの(1)「調査の目的」にありますとおり、「市民アンケート」については、各世帯における生活の様子や物質的剥奪の状況、保護者、子ども・若者の健康状態、就業の状況等を所属別に把握すること等を目的に実施しました。それから、「対象者アンケート」については、実際に支援制度を利用されているということですので、生活が厳しい状況にあると想定されるご家庭のお子さん、家庭の様子を把握するとともに、さらに必要とする支援策等についても把握することを目的に実施しました。

(大日向委員長) そうしますと、「市民アンケート」では、今後、所得とのクロス集計などを行い、もう少し綿密な分析を実施するということですね。

(事務局) はい。これからそういった分析を行い、お示ししていくことを予定しています。

それから、2点目の大学生についてですが、「市民アンケート」については0歳から24歳未満のお子さん・若者が1人以上いらっしゃる世帯を対象に実施しておりますので、大学生も調査の対象として含まれてはいるのですが、保護者の方と一緒に住まいになられている方については保護者の方が回答しており、ひとり暮らしをしている大学生については、ご自分のことについてご回答いただいたという形になっております。

閉会	
資料	資料1-1 横浜市子ども・子育て会議委員名簿 資料1-2 横浜市子ども・子育て会議事務局名簿 資料2-1 横浜市子ども・子育て会議条例（平成27年4月1日施行） 資料2-2 横浜市子ども・子育て会議運営要綱（平成27年4月1日施行） 資料3-1 子ども・子育て会議部会報告書（子育て部会） 資料3-2 子ども・子育て会議部会報告書（保育・教育部会） 資料3-3 子ども・子育て会議部会報告書（放課後部会） 資料4 次世代育成支援行動計画（後期計画）の総括関係資料 資料5 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価関係資料 資料6 地域限定保育士の創設に係る条例改正関係資料 資料7 子育て部会の所掌事業の追加について 資料8 横浜市子どもの貧困対策に関する計画（案）関係資料 【別添資料】 別添資料1 次世代育成支援行動計画（後期計画）の評価指標達成状況（資料4関係資料） 別添資料2 次世代育成支援行動計画（後期計画）の進捗状況報告書（資料4関係資料） 別添資料3 実態把握のためのアンケート調査実施結果速報（概要）（資料8関係資料）
特記事項	